

2021年度 自己点検自己評価結果のまとめと課題

今年度アンケート集計するにあたり、参考資料を提示したことにより、各教員のアンケートに回答する視点が統一できたと考える。そのため各項目に対する無回答の数も減り、前年度の結果と比較すると大項目の評価は全体的に上がっている。

I 教育理念・目的・教育人材像

前年度と比べ平均値は 2.2→2.4 と上がり、努力が必要な回答も減少。今年度カリキュラム改正に伴い教員間で学習会を重ね、再度学校の理念・学則等を理解し、教育内容、授業計画の立案、社会のニーズを踏まえた看護師育成に向けた取り組みを行うことにより教員の I に対する意識に変化が見られたと考える。特に新カリキュラムでは地域の特徴を理解し、地域で生活する人々が求める看護とは何かを考えた教育内容を検討することができている。今後の教育活動による結果から再評価していく。

II 学校運営

前年度と比較すると「努力が必要」から「普通・進んでいる」と回答した教員が増え、平均値も 1.7 から 2.2 と上昇している。参照資料により評価内容は明確になることで本校の運営方針に則った行動がとれ、学校運営について意識することができているが、意思決定システム、情報システムに対する評価は低い。今後効率的な業務のシステム化を図り、タイムリーな情報提供、意思決定が行われるよう取り組みが必要である。

III 教育活動

今年度無回答はなく、全年度と比較すると全体的に「努力が必要」から「普通・進んでいる」と回答した教員が増え平均値は 2.1→2.3 と上がっている。特に【3-8】ではカリキュラム改正に向け、本校の理念に基づき、本校が目指す看護師像を明確にして DP を検討し、到達するための指標を作成したことにより高値の評価が得られた。また【3-9】においても目標を適切にかつ効果的に達成できるよう科目編成、科目間の関係性を考えたカリキュラムマップを作成したことにより、教員間の教育内容における考えを統一することができたと考える。今後は学生が目標到達できるよう教育内容・教育方法・教材の選択などを工夫し、授業評価を分析し次年度につなげていく必要がある。しかし、キャリア教育についての評価が低いため、臨床とも連携しながらキャリア教育の実施に向けての教育内容や教材の工夫が必要となる。【3-12】について「努力が必要」から「普通・進んでいる」と回答した教員が増えている。コロナ禍ではあるが、学会等はリモートで参加し自己啓発に取り組んでいる。教員間での連携や協力体制については努力が必要と 2 名が回答しており、新しい組織体制の中での自己の役割を把握し協力体制の強化を図る必要がある。

IV学修成果

前年度よりも全体的に評価は低下し平均値 2.1→2.0 となっている。就職率については学生別就職活動状況の把握や指導等は全教員が行っているわけではないため評価は低いと考える。資格・免許取得率の向上については、今年度より外部講師による講義や領域別で国家試験対策に取り組んでいる。普通の回答が多く、再度各学年における国家試験対策の計画を見直し、強化していく必要がある。卒業生の社会的評価の把握についても前年度と同様に評価は低い。昨年1期生が卒業したため、引き続き卒業後活動状況については調査し基礎看護教育にフィードバックしていく。

V学生支援

全体の平均値は前年度と変化なく 2.0 であった。【5-19】では奨学金制度により経済的側面における支援を図っている。保護者との連携はまず、学生本人を社会人として責任ある行動をとるよう指導し、場合に応じて保護者対応を行っている。社会人経験のある学生に対しても個別指導を行っている。【5-21】については卒業後の就職相談やキャリアアップの進路相談など行っているが評価が低く、卒業生は就職してまだ1年未満でありキャリアアップの進路相談者はまだいない。引き続き近隣での就職者が多いため、地域で活躍できる卒業生のキャリアアップに向けて進路相談を行っていく。

VI教育環境

平均値は 1.9 と低いが前年度に比べると評価は 1.4→1.9 であり上がっている。【6-22】については ITC 教育に向けインターネット環境を整えている。コロナ禍によりオンライン授業も増え、外部講師の協力も得ながらスムーズに行えている。また電子教科書の導入により、幅広い学習が行えるが、教員のデジタルスキルの向上に向けた努力が必要である。【6-23】については前年度努力が必要と 10 名が回答。今年度 4 名でありコロナ禍により学外実習に多く影響を受けたが、新カリキュラムに向け各領域の実習内容や評価内容の具体的な見直しを図ることで各教員の意識に変化が見られたと考える。また合同指導者会などを通して実習期間との密な連携が図れると期待する。【6-24】については、コロナ禍により定期的な防災訓練が行ず、一人ひとりが災害に対する危機意識を持ち、今後起こりうるあらゆる災害を想定した安全管理・対策が必要と考える。

VII学生の募集と受け入れ

前年度に比べ平均値は 2.3→2.4 と少しであるが上がっている。【7-25】については積極的に高校での募集活動を行い学生の基礎学力の向上を目指している。【7-26】では入学選考基準に沿って運用できている。入学までの期間に基礎学力向上を目指し、国語・数学・理科・社会の復習を行い、入学してから学力テストを実施している。その成績を参考に GW 等の学習活動につなげていく。

VIII財務

学校ホームページにて財務情報を公開など積極的な公開に取り組んでおり、教員もそのことは理解している。しかし前年度に比べ平均値は 1.6→1.8 と上がっているものの数値としては低く、努力が必要という回答が多い。教員全体が財務状況を把握するためには担当部署からの情報開示を求め連携を図る必要がある。

IX法令等の厳守

平均値は前年度に比べ 2.1→2.3 に上がっている。設置基準等に基づき学校運営を行い、教員全体は学則・諸規定を理解できている。またカリキュラム改正に向け再度諸規定の見直しを図った。【9-33】については個人情報保護規定に沿い情報を取り扱えている。特に学生には情報の取り扱いについての指導を強化する必要がある。学生便覧、実習諸規定に提示し常に教育していく必要がある。【9-34】については学校関係者評価を公表することで教員全体が評価結果から次年度に向け改善に取り組もうという意識が少しずつ高まってきたと考える。

X社会貢献・地域貢献

全体的に評価は低く、1.5 であり、前年度 1.6 から比べると下がっている。具体的な地域貢献につながる活動について検討する必要がある。新カリキュラムでは地域で生活する人々とのかかわりや、ボランティア活動等から、地域が求める保健医療福祉や看護を把握し、教育活動に反映させていく必要がある。